月刊 名大文学部

第 116 号

発行：名古屋大学文学部
広報体制委員会
koho@hum.nagoya-u.ac.jp

教員コラム—No.114

『ギリシア案内記』への旅

周藤　芳幸（西洋史学）

「ローマの平和」が謳歌されていた 2 世紀の後半に著されたパウサニアスの『ギリシア案内記』全 10 巻は，古代ギリシアの名所旧跡とその土地ゆかりの神話を伝えるギリシア考古学の基本史料として知られています．その日本における初の学術的な翻訳は，いまから 30 年ほど前に，明治大学の教授だった馬場恵二先生（右下の写真左）によって刊行されました（ただし，第 1 巻，第 2 巻，第 10 巻のみ）。その頃の私（同右）は，ギリシア政府の給費留学生としてアテネで先史考古学を勉強しており，はるか後代のローマ時代に書かれた『ギリシア案内記』には，正直なところ，あまり関心がなかったのですが，翻訳準備のために寸暇を惜しんで日本からやってくる馬場先生のお供をして，各地の遺跡を訪れることができたのは，とても大切な思い出となっています。この写真は，1988 年の暮，アポロンの神託の地として名高いデルフィの麓に広がるオリーヴ畑でのスナップです。

それから月日は流れ，今年の春先になって，ようやく馬場先生の遺志を継ぐ形で，『ギリシア案内記』の第 3 巻と第 4 巻を京都大学学術出版会から出版することができました。学術的な翻訳とは，たんにギリシア語のテクストを字義通りに日本語に引き写すだけの作業ではありません。それは，僻遠の地まで足を運んでパウサニアスが訪れた遺跡をひとつひとつ自分の目で確認し，過去に行われてきた発掘調査の報告書や研究書を参照し，それらを総合することでパウサニアスの意図をもっともよく伝える日本語のテクストを創造していくという，とても大変で時間がかかるとともに，現実を離れて懐かしいギリシアに心を遊ばせることができる幸福な仕事でもあります。全訳の刊行に向けてまだ第一歩を踏み出したばかりですが，本書を通じて古代ギリシア世界の魅力を少しでも多くの方に伝えることができればと願っているこの頃です。

分野・専門紹介—File72

身近なギリシア神話

分野・専門名：西洋古典学

西洋古典学とは，古代ギリシア・ローマの著作を研究する学問です。叙事詩，抒情詩，悲劇，喜劇，歴史，哲学といった幅広い分野が対象ですが，その多くは神話を題材にしています。ギリシア・ローマ神話は私たちの日常生活に馴染んでいるので，どこかで神々や英雄の名前を目にしたことがある方は多いと思います。例えば，アキレス腱という名称は，ギリシア神話の英雄アキレウスに由来します。

アキレウスはホメロスの叙事詩『イリアス』の主人公として，トロイア戦争で大いに活躍しますが，最後には踵を射られて命を落とします。驚くべきことに，彼は踵を除いて不死身でした。彼は海の女神テティス

ルーベンス『ステュクスの流れに
アキレウスを浸すテティス』

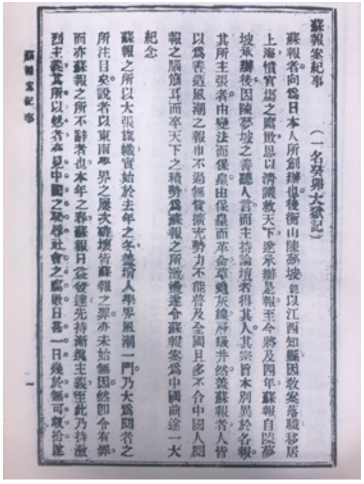
の息子ですが，父ペレウスは人間なので，アキレウスもまた死すべき存在となりました。そこで，母テティスは彼を不死身にしようと冥府の川に浸しました。その時，彼女は踵を掴んでいたので，踵だけ浸すことができませんでした。アキレス腱という名称には，我が子の不死を願う親心とは裏腹にどこか詰めが甘い，そんなテティス女神に親しみを感じるような逸話が隠されていたのです。

ここでは，アキレス腱にまつわるギリシア神話の逸話を紹介しましたが，この他にも沢山の物語が存在します。神話学（西洋古典学概論）の授業では，これらについて知ることができます。また，原典を読み解くためにはギリシア語とラテン語を学ぶ必要があります。どちらも難しいですが，原典を読んで「わかる」ことの喜びは大きいです。ちなみに，「（英雄）アキレウス」と表記しましたが，ギリシア語では「アキッレウス」，ラテン語では「アキッレース」と発音するので，「アキレス腱」はラテン語を経て作られた名称であることがわかります。　（出口　果奈・学部 3 年）

分野・専門紹介―File73

漢文史料読解の大切さと楽しさ

分野・専門名：東洋史学



蘇報案紀事　（一名癸卯大獄記）
蘇報者向爲日本人所創辦也後衡山陳夢坡（前以江西知縣因教案落職）移居
上海憤官場之腐敗思以淸議救天下遂承辦是報至今將及四年蘇報自陳夢
坡承辦後因陳夢坡之善聽人言而主持論壇者得其人其宗旨本別異於各報
其所主張者由變法而保皇由保皇而革命[illegible]井然蓋蘇報者人皆
以爲善造風潮之報非不過僅擴充勢力不能普及全國且多不合中國人閱
報之腦筋耳而卒天下之積勢爲蘇報之所激遂令蘇報案爲中國前途一大
紀念
蘇報之所以大張旗幟實始於去年之冬蓋瑣人學界風潮一門乃大爲閱者之
所注目與說者以東南學界之屢次破壞皆蘇報之罪亦未始無因然即令有罪
而亦蘇報之所不辭者也本年之春蘇報日益發達先持漸進主義至此乃持激
烈主義其所以然者本見中國之學界社會之腐敗日甚一日幾於無可收拾遂
蘇報案紀事　一

歴史学とはどのような学問なのか，歴史学者がどのように研究をしているのか，知っていますか？　高校までの歴史の勉強は，歴史上の出来事や人物，年号を覚える作業が主だったでしょう。しかし大学ではそうではありません。 歴史学では過去のことを研究します。 過去のことを知るためには，様々な史料を読み解いて，その時代の様子を復元し，現代の視点から分析を行います。 それが何の役に立つの？　と疑問に思うかもしれませんが，過去のことを知る学問，すなわち歴史学は，未来の私たちを知ることにつながる，非常に重要な学問だと私は思っています。

その歴史研究の中で重要となるのが，史料の読解です。 過去の出来事について確たる情報を得るためには史料を読み解く必要がありますが，昔の史料は今とは違う言葉遣いや考え方に基づいて書かれており，簡単に読めるものではありません

そのため東洋史学研究室の授業では，史料を読めるようになるための演習を中心に行っています。 特に中国史研究においては漢文の読解が必須となります。 高校までの授業で読む漢文とは異なり，返り点や句読点のない漢文を読むことになるので，初めはなかなかうまく読めず苦労しますが，先生方に教えていただいて沢山読んでいく中で，次第に漢文を読む感覚が身についてきます。 授業でも，最初は清末の小学校教科書などの簡単な漢文から初めて，だんだんと明代の書物や清代の公文書，清末の歴史教科書などの本格的な漢文を読んでいきます。 漢文を読む授業の他にも，現代中国語や英文で書かれた研究書を読む授業や，タイ語を学ぶ授業もあります。 初めての史料読解はなかなか読めず苦しいこともありますが，難しい史料をうまく読めたときの喜びはひとしおです。　（岸　史菜・学部 3 年）

最近の文学部

後期の授業が始まりました

教室に集まり空間を共有するいわゆる「対面授業」も一部で再開しています。マスクをしたり，アクリル板越しだったり，またオンラインと併用だったり，と制約はありますが，少しずつ普通のキャンパスライフに戻れば，と思います。（YK）

＊本紙では，名大文学部の多彩な内容を順に紹介していきますが，それまで待てない人は…
名大文学部の WEB サイト　https://www.hum.nagoya-u.ac.jp/　まで（『月刊名大文学部』のバックナンバーもあります）